

着眼点 3 の取組等に対する意見（要約）

○ 次ページ以降の表の中から、審議会として特に市に対して提案したいものについて、ご議論くださいますようお願いいたします。

次ページ以降は、各委員の意見を次の「分野」のいずれかの表にまとめています。

- ・ (1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について ※ (1) ~ (4) 着眼点 3 の中で事務局が課題と考えていること
- ・ (2) 使い捨て容器の削減の取組
- ・ (3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点
- ・ (4) プラスチックの利用の削減
- ・ 【3-1】 資源循環型の生活の普及 ※ 【3-1】 ~ 【3-3】 着眼点 3 の 3 つの分類
- ・ 【3-2】 プラスチック対策の推進
- ・ 【3-3】 食の地産地消の普及
- ・ その他 上記のいずれにもあてはまらないもの

〈分野〉 ○○○○○

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ

各意見は次の 4 つのいずれかの「種類」に分類しています。

- ・ 修正 (現在の取組等の内容に手を加える提案である場合)
- ・ 新規追加 (新規の取組等を提案される場合)
- ・ 削除 (現在の取組等を削除する提案である場合)
- ・ その他 (上記 3 つに当てはまらないもの)

各ご意見に基づき、事務局が「市民・事業者・市の取組みイメージ」を示しています。

各委員の着眼点 3 の取組等に対するご意見を事務局が「要約」しています。

※委員の皆様の方のご意見は資料 2 を参照してください。

「No.」で資料 2 にある各委員の元のご意見と突合できます。

〈分野〉(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取り組みイメージ
(1)-1	修正	コンポスト導入を個人・地域・事業者へ広げ、経験共有によって普及と個人導入の意欲を高める。事業者には店舗裏の小型コンポスト導入などを促し、生ごみ資源化を進める。	市民：コミュニティ参加や経験共有、個人導入を担う。 事業者：店舗などで小型コンポストを導入・運用し、生ごみを投入。 市：普及支援や導入促進、情報提供、環境整備を行う。
(1)-2	修正	学校教育と地域のコンポストを連携し、給食残さを活用した学習や、生ごみ→堆肥→学校・地域の花壇や菜園への循環を実現する。	市民：コンポスト運営と回収・堆肥化を担当。 市：教育プログラム企画や教材作成、学校調整、仕組みづくり、菜園・探求学習への活用を担う。
(1)-3	修正	ダンボールコンポストは生ごみ削減に有効だが、個人導入のハードルが高いため、自治会など市民協働での地域普及が重要であり、住民組織への働きかけが効果的である。	市民：自治会・ボランティアなど地域単位で参加し、経験共有や運営協力で普及に貢献し、個人としても可能な範囲で取り組む。 市：普及支援や制度設計、協働枠組みづくり、自治会など地域組織との連携促進、個人だけでなく団体への働きかけを強化。
(1)-4	新規追加	店舗の余剰食品の割引情報を店外から確認できる仕組みを整備し、市民の購入を促して食品ロスを削減する。事業者は仕組みの導入・運用を担い、市は情報整理や普及支援、NPO等との連携を行う。	市民：情報を活用し、余剰食品を購入して食品ロス削減に参加。 事業者：割引制度の導入、余剰食品情報の発信と仕組み運用。 市：情報整理、普及支援、NPO等との連携。
(1)-5	修正	SNS 発信やエコショップステッカー、量り売り導入を組み合わせ、市・事業者・市民で食品ロス削減を進める。SNS で行動変容を促し、ステッカーで店頭啓発を強化し、量り売り協力店を増やして必要量だけ買える環境を整える。	市民：SNS 情報を実践し、ステッカー・量り売りを活用して適量購入を習慣化する。 事業者：ステッカー掲示や量り売りの検討・導入、必要に応じ SNS 協力。 市：SNS での啓発、ステッカーの制作・配布、量り売り導入への事業者支援を担当。

〈分野〉(2) 使い捨て容器の削減の取組

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
(2)-1	修正	プラスチック削減には事業者の取り組みが重要であり、マイバッグ利用など市民行動を指標として可視化して広報することで、行動促進につながる。データによる見える化が参加意欲を高める。	市民：マイバッグ利用など環境配慮行動に参加。 事業者：プラスチック削減やマイバッグ利用促進を実施。 市：マイバッグ利用率の調査・指標化、広報、事業者への働きかけを担当。
(2)-2	新規追加	学校での歯ブラシ回収は教育効果が高く、家庭や地域にも広がるため、環境教育と市民協働を連携させることが重要。学校発の活動が家庭・地域へ波及し、行動変容と持続的な環境活動につながる。	市民：回収参加や家庭での行動変容、地域活動への協力。 事業者：回収プログラムへの協力やリサイクル支援。 市：学校連携、教育プログラム支援、回収スキーム設計、教材提供を担当。
(2)-3	新規追加	個人商店などに対し、プラ容器を持参した市民への食材ばら売り(例：イチゴの持参容器への単品販売)が可能か、協力を打診する。	市民：清潔な容器を持参して買い物し、プラ削減に協力しながら意見提供も行う。 事業者：持参容器へのばら売り検討と衛生管理方法の確立、市との連携体制づくりを担う。 市：小規模事業者への聞き取りやばら売り導入支援(衛生ルール・ガイドライン作成)、取り組み事例の周知を担当。
(2)-4	新規追加	エコショップと協力し、店舗内で「エコバッグ余っていませんか?」「プラ削減で地球を守ろう」などのメッセージをPRし、プラスチック削減を促進する。	市民：エコバッグ活用と過剰な袋の受け取り抑制、店舗の呼びかけへの協力、必要に応じエコバッグ提供に参加。 事業者：店内PRや情報発信、エコバッグ利用促進など市と協働して啓発する。 市：エコショップとの連携体制づくりやPRメッセージ・掲示物の制作、事例紹介を担当。
(2)-5	修正	肉や魚が発泡トレーで販売されることが多い現状を踏まえ、事業者に対してビニール袋(または簡易包装)での販売の比率を高めるよう働きかける。	市民：簡易包装を受け入れ、環境負荷低減に協力し、店舗への意見や行動で後押しする。 事業者：発泡トレー以外の包装方法を検討し、資材見直しや試行的販売の実施。 市：発泡トレー削減に向け事業者へ働きかけ、包装見直しのガイドライン検討や啓発、協議の場づくりを担当。

〈分野〉(3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
(3)-1	新規追加	成果が見える活動や学習要素を取り入れ、行政・事業者・市民が連携して清掃・調査・学習会・アプリ活用を組み合わせた環境活動を進め、ごみ減量データを公開して市民の行動変容を促す。	<p>市民：清掃・調査・自然観察への参加、データに基づく行動変容、アプリでの記録やチャレンジ参加。</p> <p>事業者：市民参加企画や調査への協力、データ提供や協賛、活動の場やノウハウ提供。</p> <p>市：市民・事業者・市の協働枠組の構築、清掃×調査など複合プログラムの支援、ごみ減量データの整理・公開、アプリ活用の導入支援を担当。</p>
(3)-2	その他	河川清掃は「清掃は手段」という指摘に賛同し、むしろ着眼点5の“市民協働体制づくり”として捉えるべきだと考える。参加者数で評価する方法は見直しが必要で、清掃そのものより協働の仕組みづくりを重視すべきである。	
(3)-3	修正	清掃活動の認知度や周知方法を検証しつつ、「河川を守りたくなる」効果的な呼びかけを行い、市民・事業者・市が連携して参加しやすい募集・情報発信を進める。	<p>市民：清掃活動への参加、情報拡散、自治会・PTA等での共有やフィードバックを行う。</p> <p>事業者：店頭掲示・SNSでの告知協力やイベント連携、必要に応じ特典協賛。</p> <p>市：清掃活動の認知状況や周知媒体の効果検証、参加を促すコピー作成・発信、媒体選定やオンライン申込など参加導線の改善を担当。</p>
(3)-4	新規追加	「河川をきれいにしましょう」という呼びかけだけでは訴求力が弱く、ゲーム性（スポ GOMIのような競技要素）を取り入れることで参加者増加が期待できる。	<p>市民：ゲーム性のある清掃イベントに参加し、周囲への参加呼びかけやSNSで情報を広め、楽しみながら継続して取り組む。</p> <p>事業者：賞品提供や運営支援などの協賛、店舗での告知、チーム参加等で協力。</p> <p>市：ゲーム性・競争要素を取り入れた清掃イベントを企画し、外部団体との連携や協賛調整、広報と参加促進を担当。</p>

〈分野〉(4) プラスチックの利用の削減

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
(4)-1	新規追加	包材をプラスチックから紙・バイオプラスチック等の環境負荷の低い素材へ切り替える取り組みを推進する。	<p>市民：紙・バイオプラ商品の選択購入や、生分解性プラ製ごみ袋の利用で環境負荷低減に貢献する。</p> <p>事業者：紙・バイオプラなど環境負荷の低い素材への切替や使い捨てプラ削減を進める。</p> <p>市：素材転換を促す仕組み（支援・ガイドライン）づくりや、生分解性プラ製生ごみ袋の導入・普及を担当。</p>
(4)-2	新規追加	市役所の自販機でペットボトル飲料の販売を中止し、プラスチック削減を進める。	<p>市民：市役所利用時にマイボトルや代替飲料を選び、市の方針を理解し日常のプラ削減行動につなげる。</p> <p>事業者：ペットボトル販売停止への対応、紙パック・缶飲料の提供や給水機導入など、市と協力して環境配慮を実施。</p> <p>市：市役所の自販機でペットボトル販売を中止し、紙パック・缶・給水スポットなどの代替を導入し、市民へ削減の意義を発信。</p>

〈分野〉【3-1】資源循環型の生活の普及

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
【3-1】 -1	その他	市民が環境資源に気づき行動するには、市の支援と仕組みづくりが重要。担い手は市民全員ではなく、自治会や学区、商店街など地域組織が中心となるべきで、身近な地域単位で市と協働する仕組みが必要。環境活動と自治会活動を結ぶ体制づくりが持続可能なまちづくりの鍵となる。	
【3-1】 -2	新規追加	市内事業者に対し、環境配慮型の優良事業者や認証制度を活用した「環境に配慮した事業者選択・調達」を促進する。	事業者：優良処理業者の活用や環境認証の取得・維持を行い、基準に沿った環境配慮型運用を実践する。 市：優良産廃処理業者情報を市内排出事業者へ提供し、入札条件に環境認証（グリーン経営・ISO14000・東京都貨物輸送評価制度など）取得を求める仕組みを導入。事業者の環境負荷低減を促す制度の設計と普及を行う。
【3-1】 -3	新規追加	市民が自分のごみの行方を実感できる機会を増やすため、特に小学生が在学中に必ず清掃工場を見学できるよう、教育委員会・学校と連携する。また、見学時には食品ロスについて学べるよう環境組合の協力を得る。	市 民：小学生を中心に見学参加し、学んだ内容を家庭・地域で共有し、食品ロス削減などの行動につなげる。 事業者：必要に応じ教材提供や関連プログラムへの協力。 市：清掃工場見学を増やすため学校と調整し、環境組合と連携して食品ロス学習を組み込むほか、受け入れ体制を整備。
【3-1】 -4	修正	市民農園・アダプト制花壇・自治会花壇などで、生ごみ、たい肥の利用を促進する働きかけを行う。	市 民：市民農園や花壇でたい肥を活用し、利用状況の共有や改善提案、自治会・ボランティアとして協力する。 事業者：たい肥事業者は提供・品質管理、園芸店は利用助言や資材提供。 市：たい肥利用を広げるための情報提供や品質基準・使用ガイドの作成、市民農園や自治会花壇への導入支援と調整を担当。

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
【3-1】 -5	削除	サブスク、シェアエコについての情報収集や研究を行うことによいとは思いますが、市場性が高いことからトラブルが発生した場合に市では対応できないことが予想できる。	
【3-1】 -6	修正	集合住宅向けに小型ベランダ用コンポストを廉価で提供し、団地・マンション敷地内に住民が堆肥を投入できる場所を行政が支援して整備する。	市 民：ベランダコンポストを活用し、堆肥を指定場所へ持ち込み、管理組合・自治会と連携して運用に協力。 事業者：小型コンポストの開発・販売や普及協力、堆肥事業者は回収・管理を支援。 市 民：小型ベランダ用コンポストの普及支援（廉価販売・補助）、団地・マンションでの堆肥投入スペース整備や管理組合との調整、ガイドライン作成を担当。

〈分野〉【3-2】プラスチック対策の推進

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
【3-2】 -1	新規追加	店舗で行われているプラスチック製品(コンタクトレンズケース・歯ブラシ・パウチ・ペンなど)の回収取り組みを市として紹介・周知する。	市 民：対象プラを店舗へ持ち込み、ルールに応じて分別し、積極的にリサイクルに参加する。 事業者：回収ボックスの設置・管理、対象品目の案内、回収プラの適正リサイクルを実施。 市 民：店舗のプラ回収情報を集め、回収拠点の周知や店舗との連携による回収促進の仕組みづくりを担当。
【3-2】 -2	その他	マイボトル用給水機の存在を市民に浸透しているとは思えません。公共施設で給水機の有無を尋ねてもマイボトル用給水機の存在自体を知らない人が多いようです。	

〈分野〉【3-3】食の地産地消の普及

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
【3-3】 -1	修正	地産地消の利点（排気ガス削減・低価格・新鮮さ・地域経済への貢献）を、市民にわかりやすい言葉で紹介する。	<p>市民：地元産食材を積極購入し、地産地消の利点を理解して日常の消費行動に反映する。</p> <p>事業者：地元食材の取扱いや情報発信、市と連携したキャンペーン参加、地元農家との連携強化。</p> <p>市：地産地消の利点を整理して広報し、生産者・販売店との連携や学校給食・公共施設での活用事例紹介を行う。</p>
【3-3】 -2	修正	年末に市役所駐車場で行われているような販売会を、市内の他の時期・場所でも増やして開催してはどうか。	<p>市民：販売会への参加・購入で地域経済に貢献し、開催場所などの意見提供や周知協力を行う。</p> <p>事業者：出店や商品提供、多様な販売会への参加、来場者へのサービス提供。</p> <p>市：販売会の開催場所・時期の拡大に向けた調整、市内事業者との連携、広報や企画運営支援、会場確保を担当。</p>
【3-3】 -3	新規追加	一般家庭が地元農家と契約し、作物を直接購入できる仕組みをつくる。	<p>市民：契約購入で地元農産物を継続利用し、ニーズ提供を通じて地域農業を支える。</p> <p>事業者：定期便や作物セットなど契約販売に応じ、安定供給や栽培計画調整、市と協力した安全情報提供を行う。</p> <p>市：地元農家と家庭をつなぐ契約購入（CSA等）の仕組みづくり、マッチング支援や広報、購入システムの運用を担当。</p>

〈分野〉 その他

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
その他 -1	新規追加	市民・事業者・市が共創し、計画から実施、普及啓発、行動変容、将来的な制度化までを一体的に進める。実証実験の成果をもとに、社会全体でスタンダードを形成し、ルール化へつなげる。	市 民：実験参加や行動変容、制度受容を担う。 事業者：実証フィールド提供や運用協力、実務的なフィードバックを担う。 市：ロードマップ設計、実証・評価、普及啓発、制度化を担当。
その他 -2	新規追加	フェスを実証の場として活用し、プラ使用の制限やリユース容器義務化で利用を促す。同時に、導入補助や洗浄設備、回収拠点の整備を進め、リユース容器の回収・返却を定着させる。	市 民：リユース容器の利用と返却協力、継続参加を行う。 事業者：会場運営とリユース容器の提供・管理、回収仕組みづくりを担う。 市：ルール設定や補助・設備支援、環境整備、周知を担当。
その他 -3	新規追加	減少する「緑の市民活動団体」を維持・増やすには、市民参加から団体加入への流れづくりと人材育成が重要。イベント参加を入口に親子や学校とつなぎ、団体紹介で関与を促す仕組みが必要。市民活動リーダー講座などで新たな担い手育成も進める。	市 民：イベント参加をきっかけに団体加入や継続的活動へ進み、育成講座でリーダーとして育つ。 事業者：イベント協賛や会場提供などの間接支援、必要に応じ団体と連携した活動の場づくりに協力。 市：団体減少への対策や制度設計、イベントから団体加入につなぐ仕組みづくり、環境イベントでの団体紹介の定着、リーダー育成講座の実施、学校・PTA等との連携を担当。
その他 -4	その他	「多摩市気候市民会議の評価を踏まえ、着眼点3「地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり」の取組の中から、見直すべき取組み（「重点的に実施する取組」及び「改善すべき取組み」）があるか確認する。」は、大変良い方向性と考えます。	
その他 -5	その他	市民、事業者、市の取組とありますが、市の取組に対して市民の取組項目が少なく感じます。	

No.	種類	要約	市民・事業者・市の取組みイメージ
		市民の取組をもう少し厚くできると、市民の皆様にも身近なものに感じられるのではないかと思います（市民の取組を増やせなければ、市の取組を減らして、相対的に市民の取組を多く見せるのもひとつの見せ方かと）。	
その他 -6	その他	<p><着眼点3を通じた意見></p> <p>・報告書スライド P.26 市民会議の評価：「ダウン傾向が多くて意識して行うべき」</p> <p>マイバッグ 83.5→80.6、河川清掃参加人数 206→122、河川清掃回数 11→10・・・ダウン傾向が多いと評価するレベルではない。調査環境や天候に左右されるような指標に一喜一憂していると、自らの首を締めることになるのでは？</p>	
その他 -7	その他	（質問）使い捨て容器削減に関して、小売店舗等ほどの程度負担が削減されるか？の感覚は市から聞かれたことがありましたら次回ご紹介下さい。	